

=====

株式会社 ジーエス・ユアサ コーポレーション
SMBC 日興証券 個人投資家様向け説明会 (LIVE 配信)
質疑応答要旨

=====

<概要>

- ◇開催日時：2022年12月16日(金) 16:00～16:40
 - ◇説明者：コーポレート室 部長 青木 裕
-

<ご留意事項>

この「質疑応答要旨」は、説明会での発言内容全てをそのまま書き起こしたのではなく、当社の判断で簡潔にまとめたものであることをご了承ください。

*文中における略称について

■会社名

- ・BEC：株式会社ブルーエナジー
- ・LEJ：株式会社 リチウムエナジー ジャパン

■その他

- ・EV：電気自動車
- ・HEV：ハイブリッド車

【質問①】

最近投資キャッシュ・フローが高くなっているが、投資の力点はどこに置いているか。

【回答①】

設備投資額は今年度も300億円ほどになる見込みで、HEV用リチウムイオン電池を製造・販売しているBECが第2工場を立ち上げた影響で大きくなっている。リチウムイオン電池は鉛蓄電池よりも設備投資額が大きくなるが、今後HEV用リチウムイオン電池の売上も大きく伸びる見込みで、投資の回収は見込めると考えている。

【質問②】

EV用リチウムイオン電池に関しては、中国企業の名前を聞くことが多いように感じるが、中国企業と比較したGSユアサの強み・弱みを教えてください。

【回答②】

中国・韓国のメーカーがEV用リチウムイオン電池に力を入れているが、EV用リチウムイオン電池は設備投資額がかなりかかる。当社でもEV用リチウムイオン電池分野への本格参入に向けて研究開発や投資などのリソースを振り向けて行く必要があると考えており、リチウムイオン電池事業部内にBEV電池開発室を設けて、自動車メーカーと協働しながら電池の開発を進める体制を整えている。来年度以降の第六次中期経営計画期間で開発を進め、特に日系自動車メーカーからの需要に対応していきたい。

また今後の戦略としては、自動車メーカーに資金提供をしてもらい、マジョリティにはこだわらずEV用市場に参入していきたい。

当社の強みは日系自動車メーカーから評価される技術力だと考えている。

【質問③】

リチウムイオン電池事業において、原材料となるリチウムの確保についてどのような対策を取っているか。

【回答③】

リチウムなどの原材料の確保は難しくなっており、需要も大きく増えているが、複数のサプライヤーから購買し、現段階では問題ないと考えている。

またリチウムイオン電池の開発において、資源の制約を受けない素材を使用した次世代電池の開発も進めている。

【質問④】

車載用全固体電池の実用化はいつごろか。

【回答④】

全固体電池の実用化時期については質問を頂くことが多い。現在実用化されている全固体電池は小型だが、車載用のように大型のものは実用化が難しく、まだ時間がかかる。当社では研究開発を進め、2025～2026年ごろにまずはロケットなどの特殊用途から実用化し、そのノウハウを活用して2030年ごろに車載用の実用化を目指す。

【質問⑤】

為替変動は事業にどのように影響するか。

【回答⑤】

鉛蓄電池は重量物で輸送に向かない為、地産地消を基本として、自動車メーカーなどとは

異なり輸出するようなビジネスは基本的に行っていない。そのため為替による利益への影響はニュートラルだと考えている。売上高に関しては現地通貨から日本円への換算により影響を受ける。

【質問⑥】

電動化で EV へのシフトが進んだ場合、鉛蓄電池は必要なくなるのでしょうか。

【回答⑥】

現在は EV にも必ず 1 台に 1 つ補機用として鉛蓄電池が搭載されている。補機用とは停車中のカーナビのメモリーバックアップ用や、ドアの開閉時に微電流を流す用途、電動車のシステムを起動する用途などが挙げられる。駆動用リチウムイオン電池は非常に高い電圧で常に待機させていると危険性が高いため、補機用としては今後も鉛蓄電池が使用されると考えており、結論として、鉛蓄電池はなくならないと考えている。

電動化が進んで補機用が鉛蓄電池からリチウムイオン電池に代わった場合も、12V リチウムイオン電池を製造しているので、当社の電池は搭載され続けると考えている。

以上